

緊急時のレボノルゲストレル単独投与（緊急避妊薬）の安全性に関するファクトシート【WHO, 2010】

緊急避妊は、性交後に使用することで、ほとんどの妊娠を防ぐことができます。これは、避妊具を使用しない性交や避妊の失敗の際、重要なバックアップ（備え）となり、レイプや強要された性交の後には特に有用です。このファクトシート^(※注1)は、ほとんどの国で利用可能なレボノルゲストレル単独の緊急避妊薬（レボノルゲストレル 緊急避妊薬）について述べたものです。

(※注1) WHOファクトシート Fact sheet on the safety of levonorgestrel-alone emergency contraceptive pills (LNG ECPs) References (右QRコード参照→)



1. レボノルゲストレル 緊急避妊薬は安全ですか？

レボノルゲストレル 緊急避妊薬は**思春期を含むすべての女性に安全に使用することができます**。レボノルゲストレル 緊急避妊薬の有効成分であるレボノルゲストレルは、30年以上前から様々な製剤で広く使用されており、生殖年齢の女性を対象に広く研究されています。レボノルゲストレルは忍容性が良好で、アレルギー物質ではなく、数日以内に体内から排出され、中毒性はなく、毒性反応もないことが実証されています^{1,2,3)}。レボノルゲストレル 緊急避妊薬は過剰摂取の危険性はなく、大きな薬物相互作用や禁忌薬はありません³⁾。世界保健機関（WHO）は、避妊具を使用しない性交後120時間^(※注2)以内の緊急時にレボノルゲストレル（1.5mg）を単回投与をすることを推奨していますが、繰り返し使用しても健康上のリスクはないとされています^{4,5)}。1回の月経周期に複数回の緊急避妊薬を使用した女性においても重篤な副作用は報告されていません⁶⁾。レボノルゲストレル 緊急避妊薬は数十年前から使用されており、現在の研究では、がんのリスクの増加との関連性は示されていません⁷⁾。多くの避妊薬に含まれるエストロゲン（以下、卵胞ホルモン）は、特に35歳以上の喫煙者の女性では、脳卒中や静脈血栓塞栓症の（非常に低い）リスクと関連していますが、レボノルゲストレルにはそのようなリスクはありません。レボノルゲストレル 緊急避妊薬は、レボノルゲストレル（プロゲステルゲンホルモン（以下、黄体ホルモン））のみを有効成分として含んでおり、黄体ホルモンと卵胞ホルモンの両方を含む避妊薬に関連するリスクはありません。レボノルゲストレル 緊急避妊薬の1回分のホルモン含有量は、ほとんどの一般的な避妊薬の1サイクルの半分以下です（ただし、月毎の避妊薬はより長い期間をかけて内服するものです）。

2. レボノルゲストレル 緊急避妊薬で副作用は起こりますか？

レボノルゲストレル 緊急避妊薬には**重篤な副作用や持続的な副作用はありません**。一部の女性（研究では5人に1人以下）では軽度で短期的な副作用が認められますが、最も一般的な副作用は、月経不順です。その他に報告されている副作用には、疲労感、腹部不快感、吐き気などがあります³⁾。

3. レボノルゲストレル 緊急避妊薬は異所性妊娠のリスクを高めますか？

異所性妊娠（子宮外妊娠）とは受精卵が子宮外に着床することで危険になりうる状態ですが、レボノルゲストレル 緊急避妊薬は**異所性妊娠のリスクを増加させません**^{9,10)}。216人の妊娠された方へのレボノルゲストレル 緊急避妊薬の使用に関する23の研究を評価し、公表されている文献を網羅的に検索した結果、異所性妊娠は1%未満（0.9%）であり、これは一般的な異所性妊娠の割合よりも低いか、同程度であることがわかりました¹¹⁾。緊急避妊薬は妊娠のリスクを軽減し、レボノルゲストレル 緊急避妊薬 使用後に成立した妊娠では、異所性妊娠の割合は低いか、予想されるものと同程度です。

4. レボノルゲストレル 緊急避妊薬の使用は将来の妊孕性に影響しますか？

緊急避妊薬の使用は、**将来の妊孕性に影響を与えません**^{12,13)}。レボノルゲストレル 緊急避妊薬は数日以内に体内から消失し、緊急避妊薬を使用した女性は、その後の性交によって妊娠することができます。

※注1) ファクトシート：WHOでは、疾病や健康課題に関する市民向けの基本情報として、ウェブサイト「ファクトシート」が公開されています。ファクトシートは、感染症、非感染性疾患、高齢者、環境などWHOが取り組んでいる様々なテーマについて、最新の概要をわかりやすく簡潔にまとめた有用な情報源となっています。*<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

※注2) 日本では、緊急避妊法の適正使用に関する指針及び添付文書上、レボノルゲストレル 緊急避妊薬の内服は、性交後72時間以内とされています。

緊急時のレボノルゲストレル単独投与（緊急避妊薬）の安全性に関するファクトシート（続）【WHO, 2010】

5. レボノルゲストレル 緊急避妊薬は胎児に害を与えますか？

レボノルゲストレル 緊急避妊薬は、**妊娠初期に誤って使用しても胎児に害を与えることはありません**。妊娠中にレボノルゲストレル 緊急避妊薬を使用した女性と使用しなかった女性の妊娠結果を比較した研究では、流産率、出生体重、奇形、出生時の性比に差はみられませんでした¹⁴⁾。

6. レボノルゲストレル 緊急避妊薬は流産を引き起こしますか？

レボノルゲストレル 緊急避妊薬は、**妊娠を中断させたり、発育中の胎芽に害を与えたりしません**¹⁵⁾。これまでのエビデンスから、レボノルゲストレル 緊急避妊薬の使用で受精卵が子宮内膜に着床することを防がないことが示されています。主な作用機序は排卵を止める、または遅らせることです；レボノルゲストレル 緊急避妊薬の使用は精子と卵子が出会うことを妨げ得ます¹⁶⁾。

7. 市販薬化(OTC)された場合、女性は、レボノルゲストレル 緊急避妊薬の情報を理解して正しく使用することができますか？

レボノルゲストレル 緊急避妊薬の用法は簡便であり、正しい使用のために医学的管理下におく必要はありません¹⁷⁾。多くの国で市販薬または処方箋なしでの使用が承認されています。研究結果で、**若い女性も成人女性も、ラベル表示と説明書を容易に理解出来ることが実証されています**^{18,19)}。十代の若者や若い女性が、一度に複数のレボノルゲストレル 緊急避妊薬を供給された場合でも、日常的な避妊法の代わりに緊急避妊薬を繰り返し使用するということはありませんでした²⁰⁾。

8. レボノルゲストレル 緊急避妊薬の手に入れやすさと使用は、より多くの無防備な性交につながりますか？

いくつかの研究では、レボノルゲストレル 緊急避妊薬への**アクセスを容易にしても、性的もしくは妊娠のリスクのある行為は増加しないことが示されています**^{20,21)}。レボノルゲストレル 単独の緊急避妊薬を緊急ではない状況で（すなわち、あらかじめ）手に入れた女性は、必要に応じて使用し、最も効果的な性交後12時間以内に服用する可能性が高かったことが示されています^{20,21,22)}。英国で行われた研究の結果では、若年層のレボノルゲストレル 緊急避妊薬に対する知識や手に入れやすさと、性的活動が活発になる可能性との間には相関関係はないことが示されています²³⁾。さらに、レボノルゲストレル 緊急避妊薬を使用したことのある10代の若者や若い女性は、緊急避妊を一度も使用したことのない方と比較して、性感染症のリスクは高くありませんでした²⁴⁾。

結論

科学的根拠（エビデンス）の慎重なレビューにより、レボノルゲストレル単独の緊急避妊薬は**非常に安全である**ことが示されています。流産を引き起こしたり、将来の妊孕性に害を及ぼすことはありません。副作用はまれで、一般的には軽度です。

本翻訳について

これは、WHOの許可を得て、緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクトが「レボノルゲストレル単独の緊急避妊薬（LNG ECPs）の安全性に関するファクトシート（Fact sheet on the safety of levonorgestrel-alone emergency contraceptive pills (LNG ECPs), 2010）」を翻訳したものです。WHOはこの翻訳の内容や正確性について責任を負いません。英語版と日本語版の間に矛盾がある場合は、英語版の原文が真正で拘束力があります。ファクトシート並びに参考文献は右QRコードからご参照ください。

緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト

本プロジェクトは、女性が健康を守るために、安心して、適切かつ安全に、緊急避妊薬（通称 アフターピル）にアクセスできる社会の実現を目指す市民プロジェクトです。HP: <https://kinkyuhinin.jp/> お問い合わせ: info@kinkyuhinin.jp



【緊急避妊薬】 薬局試験販売で購入された方・ 試みたができなかった方への アンケート

【緊急避妊薬・薬局試験販売で購入された方・試みたができなかった方へのアンケート】

実施期間：2024年4月1日 - 4月21日23:59

お問い合わせ：#なんでないのプロジェクト nandenainohinin@gmail.com

引用、転載等の際は必ず 「#なんでないのプロジェクト調べ」と出典の明記 事前の問い合わせを願います

調査の概要

調査実施期間

2024年4月1日 - 4月21日

調査の目的

緊急避妊薬の薬局における試験販売の現状とそれに関連する当事者のニーズの把握

方法

「Googleフォーム」を使用。フォームのURLをSNSを通じて発信し、当事者にリーチさせる「スノーボールサンプリング」で行った。

調査対象

「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」を通じて

- 緊急避妊薬を薬局で入手した方
- 緊急避妊薬を薬局で入手しようとしたができなかった方

【緊急避妊薬】

薬局試験販売で購入された方・
試みたができなかった方への
アンケート

【緊急避妊薬・薬局試験販売で購入された方・試みたができなかった方へのアンケート】

実施期間：2023年4月1日 - 4月21日 23:59

お問い合わせ：#なんでないのプロジェクト nandenainohinin@gmail.com

引用、転載等の際は必ず①「#なんでないのプロジェクト調べ」と出典の明記②事前の問い合わせをお願いします

調査結果使用上のお願い

✓ 調査結果の偏り

本件に関して問題意識が高い層にリーチしている可能性などにより、回答者の偏りが存在します。本データは母数を緊急避妊薬服用者一般ではなく、本調査回答者と解釈しています。利用する上では対象者の偏り、サンプル数、表現等にご留意の上、取扱いにご注意ください。

✓ 引用・転載等の際

引用・転載等の際は、「#なんでないのプロジェクト調べ」と出典明記をお願いします。

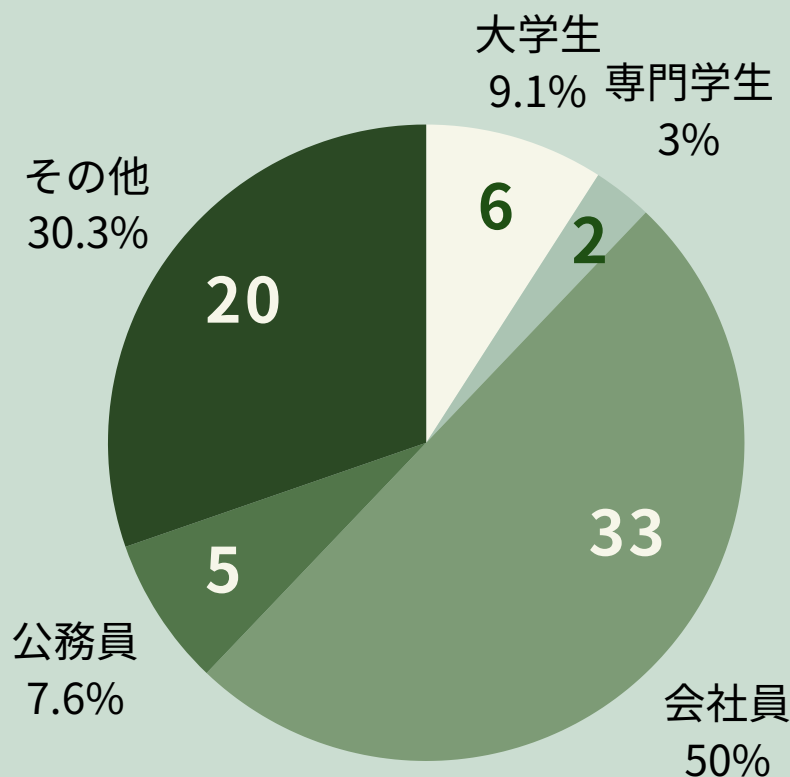
メディア掲載される場合は、必ず事前にお問い合わせください。

✓ お問い合わせ先

nandenainohinin@gmail.com

回答者について：性別・職業

性別：女性 65人 / その他 3人 / 計68人

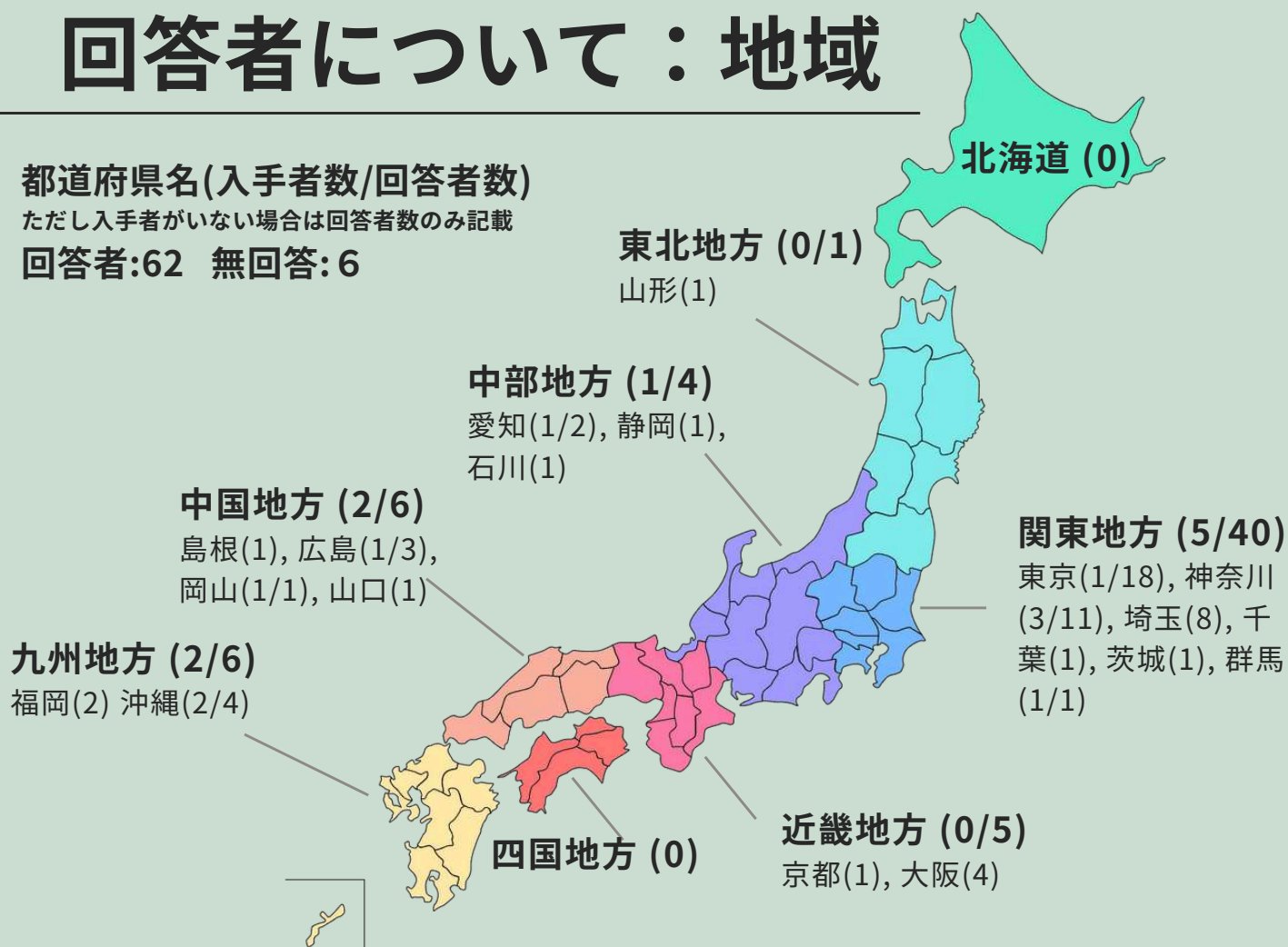


回答者について：地域

都道府県名(入手者数/回答者数)

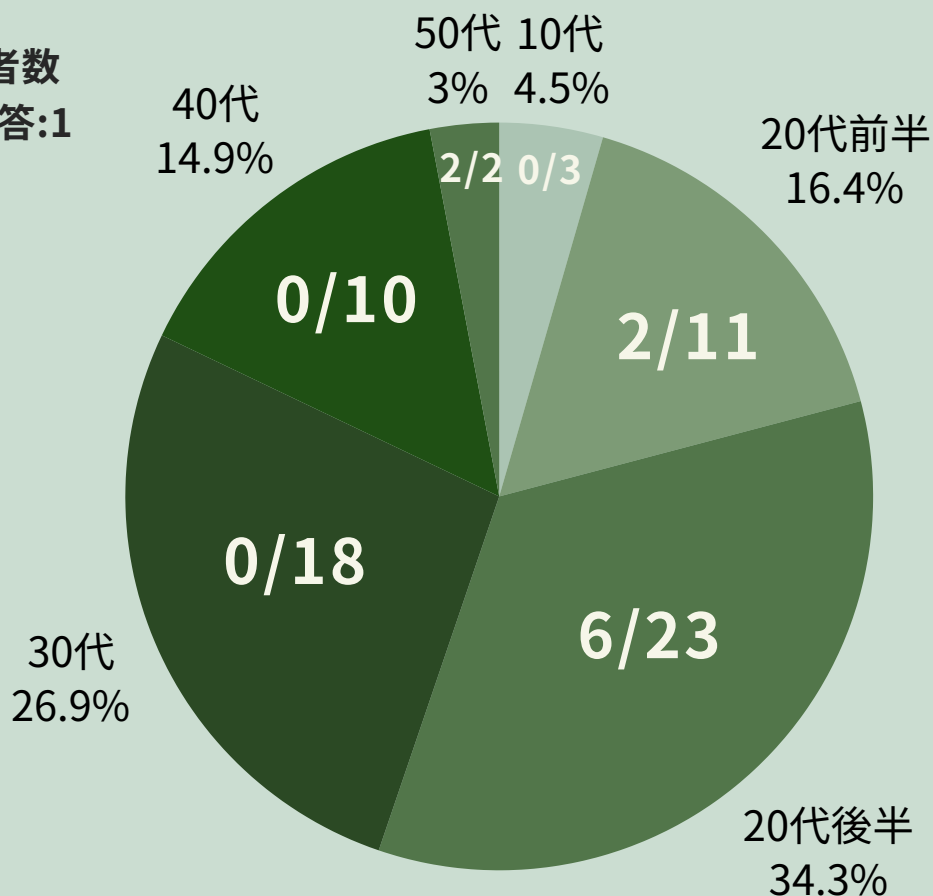
ただし入手者がいない場合は回答者数のみ記載

回答者:62 無回答:6

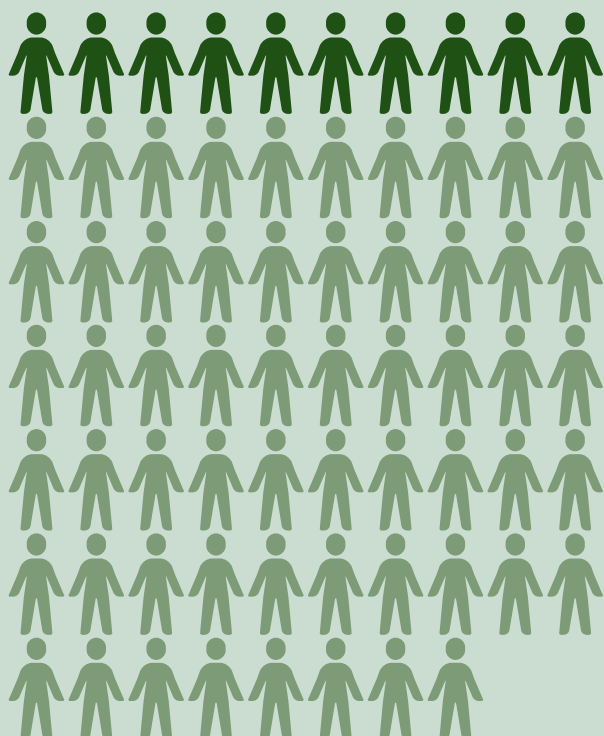


年齢の分布

入手者数/回答者数
回答者:67 無回答:1



薬局購入できた人

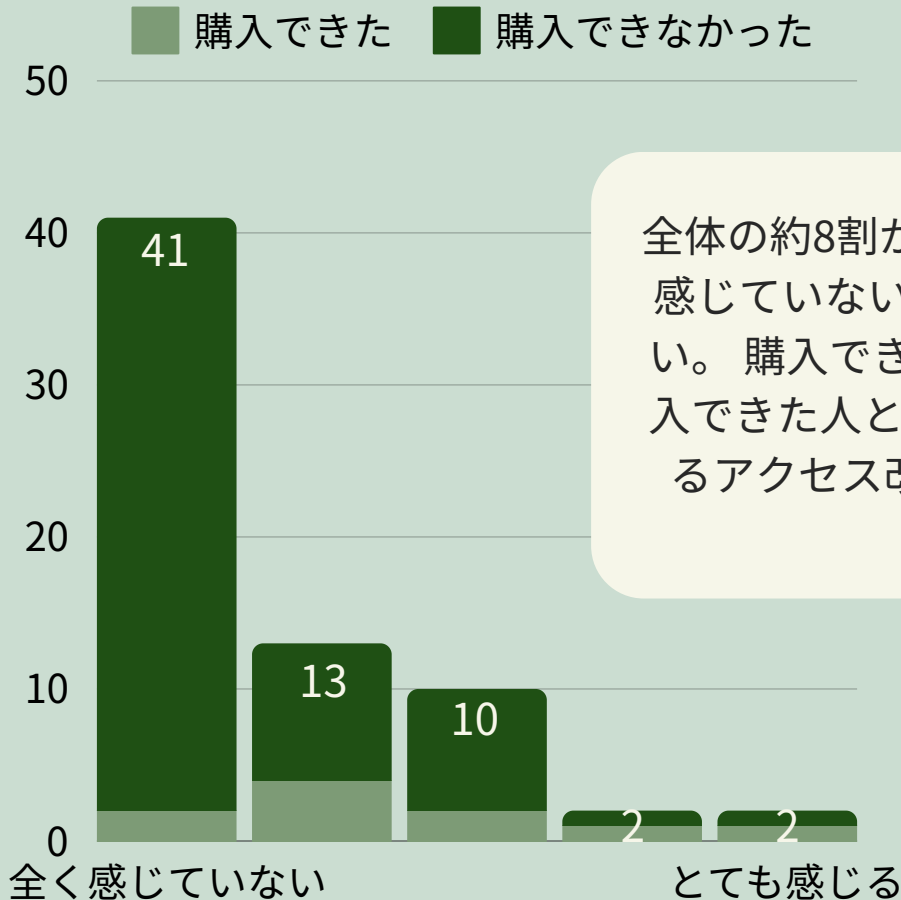


15 %

回答者のうち

薬局で緊急避妊薬の購入を試みて
「緊急避妊薬販売に係る環境整備
のための調査事業」を通じて実際
購入できたのは15%、68人中10人

アクセス改善 感じてますか？

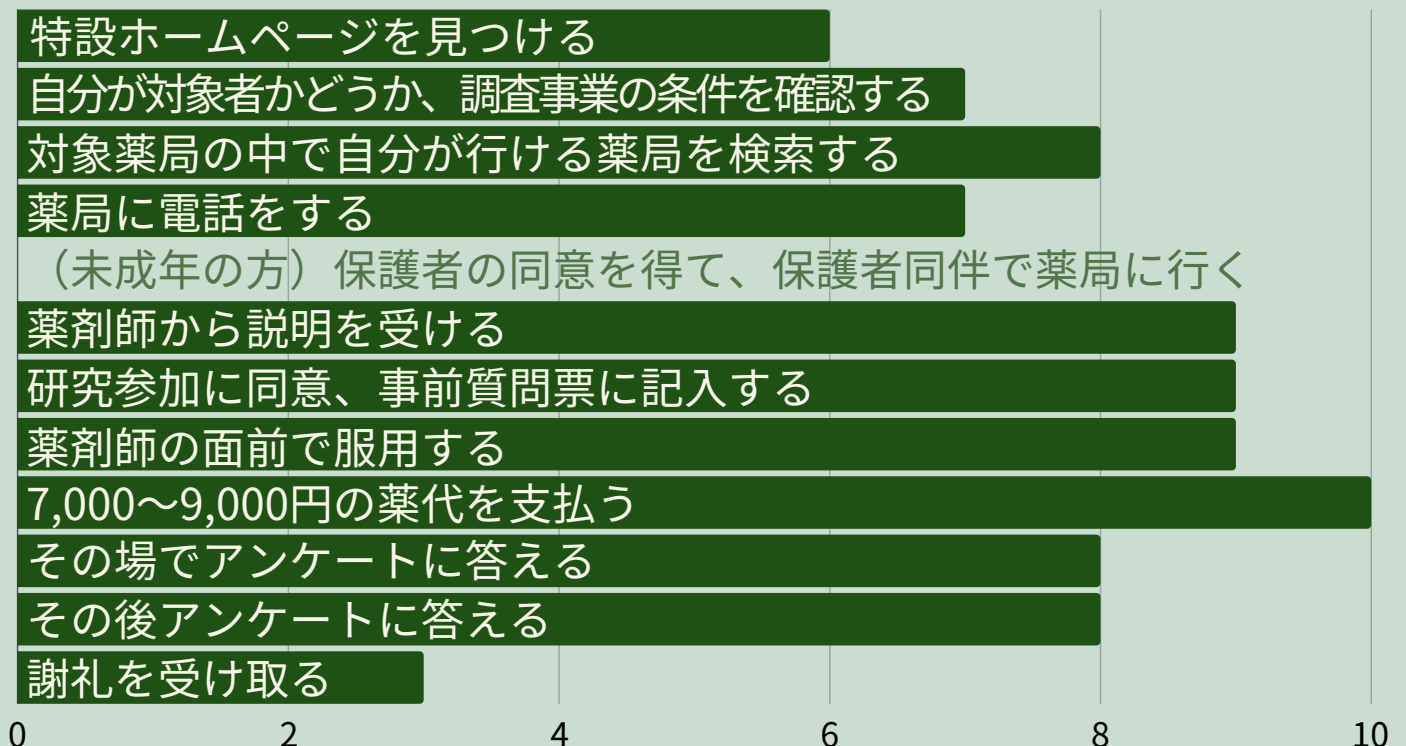


全体の約8割が、アクセス改善を全く感じていない、もしくは感じていない。購入できなかった人の方が、購入できた人と比べて 試験的運用によるアクセス改善を感じていない。

回答者数：68

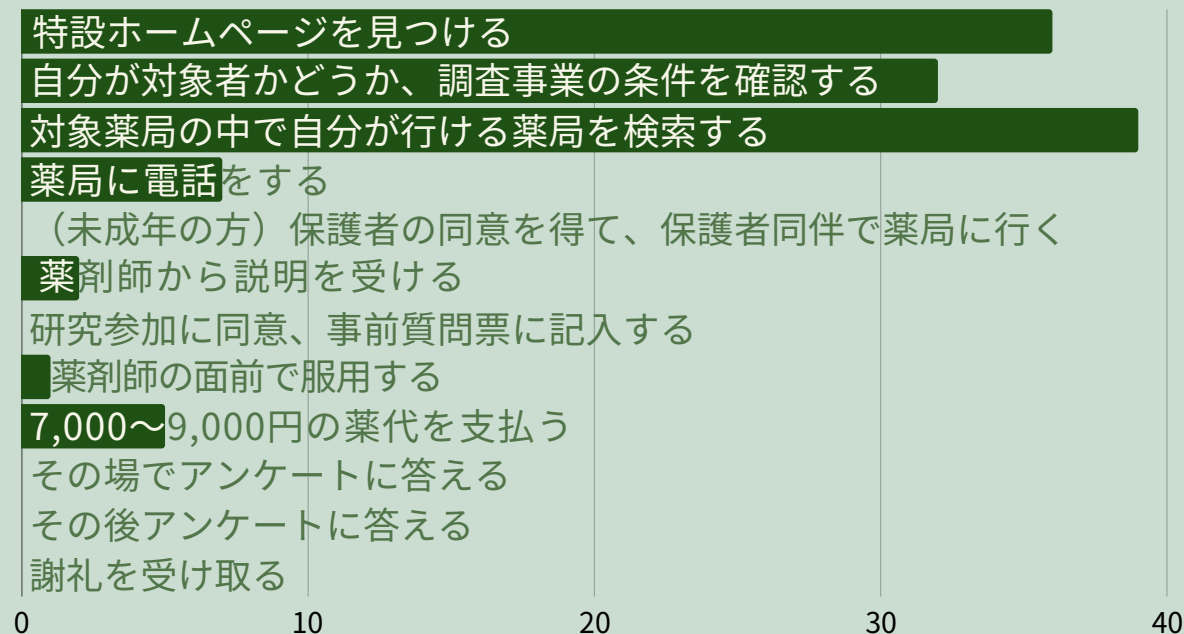
踏んだ手順を教えてください

薬局で購入できた人



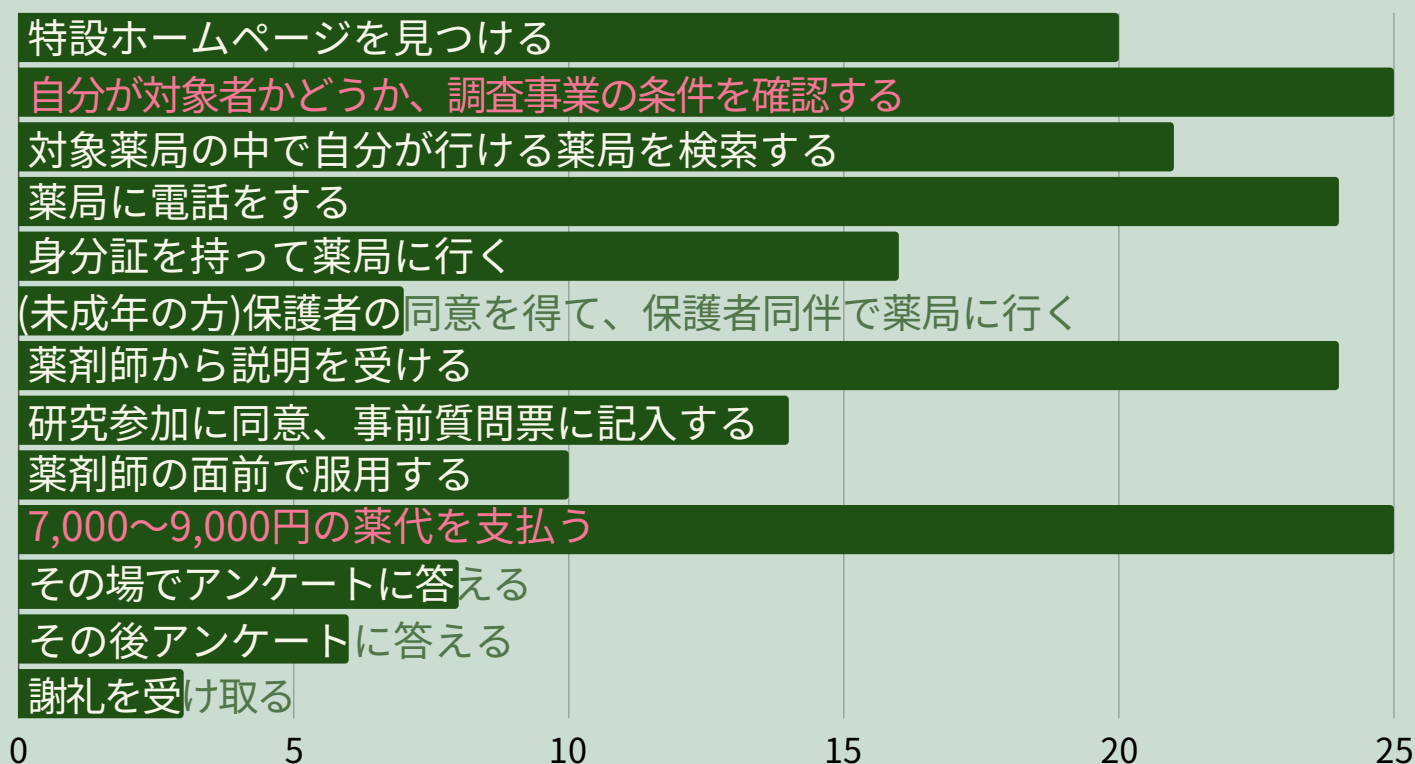
踏んだ手順を教えてください

薬局で購入できなかった人



緊急避妊薬入手を断念した人の内、約7割弱が特設ホームページにたどり着いているが、対象薬局の検索まで進めた人の約8割が電話をかけるところで断念。対象薬局が広がれば、薬局でのアクセスを確保できた可能性がある。

ハードルに感じた手順



ハードルを感じた理由

情報

「アフターピル」等の検索では、調査事業が開始するというニュース記事や、まとめサイトなどしか出てなかった。
(神奈川県・26歳)

アクセス

近隣には薬局がなかった。(片道約2時間かかった)
(沖縄県・23歳)

自分自身の体の事なのに他者の承認を受ける事が多すぎる(広島県・33歳)

価格

7,000-9,000円を予定なく用意することが難しい。
(東京都・28歳)

高すぎる。
(福岡県・26歳)

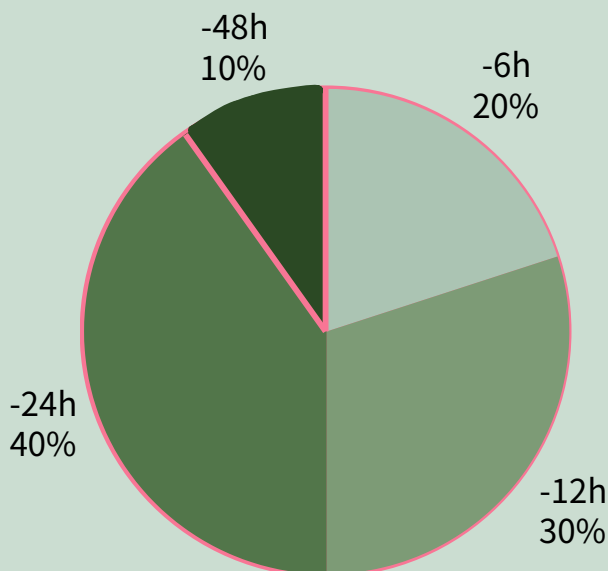
仕組み

薬剤師の目で服用しないといけないのは、プライバシーの観点から非常に不快に感じた
(神奈川県・25歳)

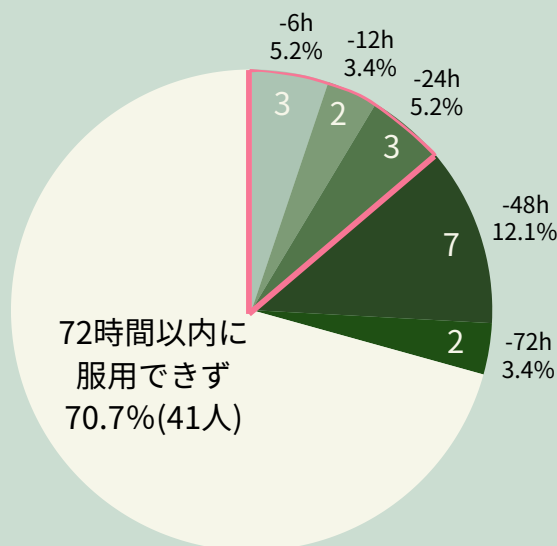
緊急なのにやる事が多い。
(沖縄県・30歳)

服用までにかかった時間

薬局で入手した場合(10人)

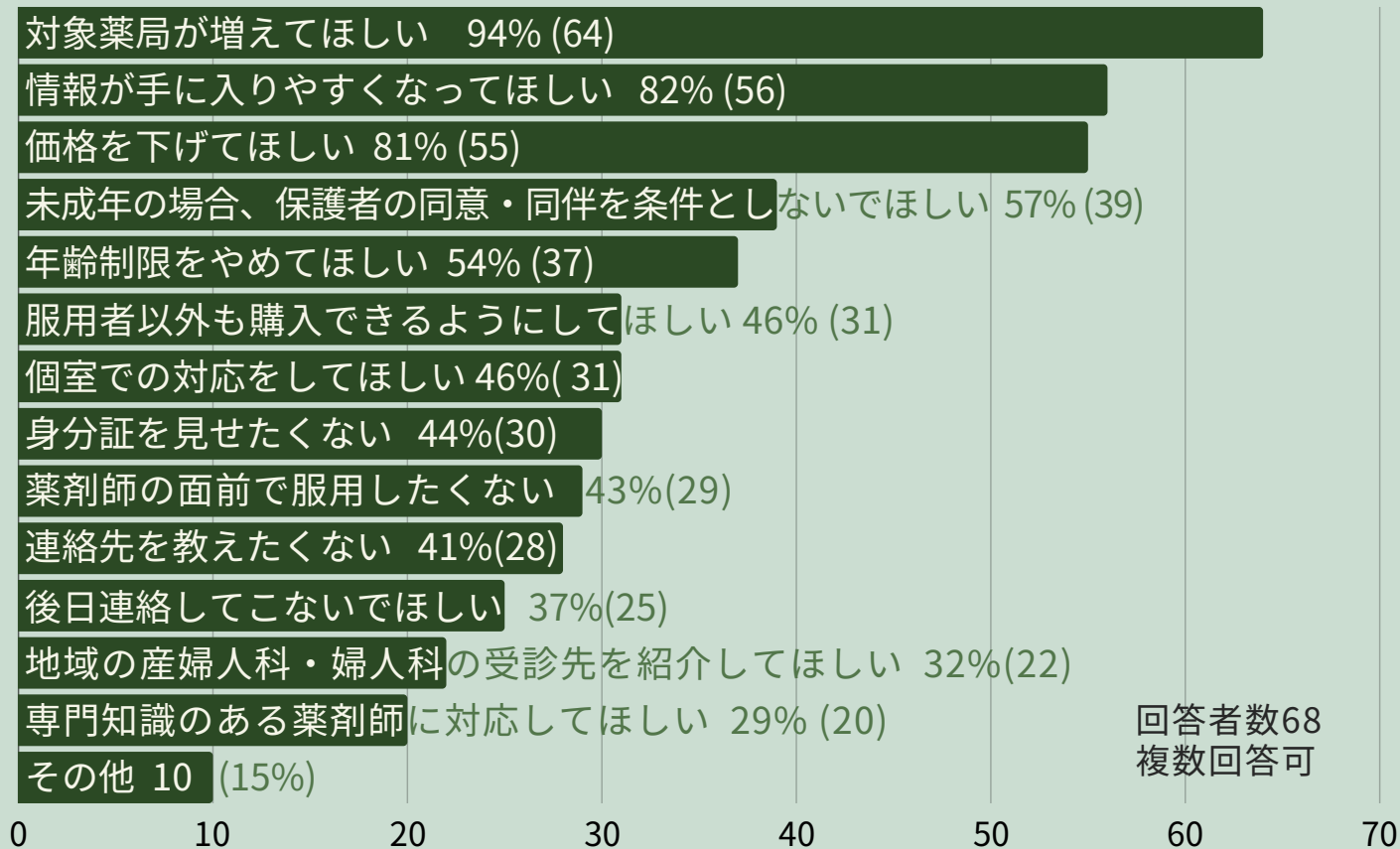


薬局で入手できなかった場合(58人)

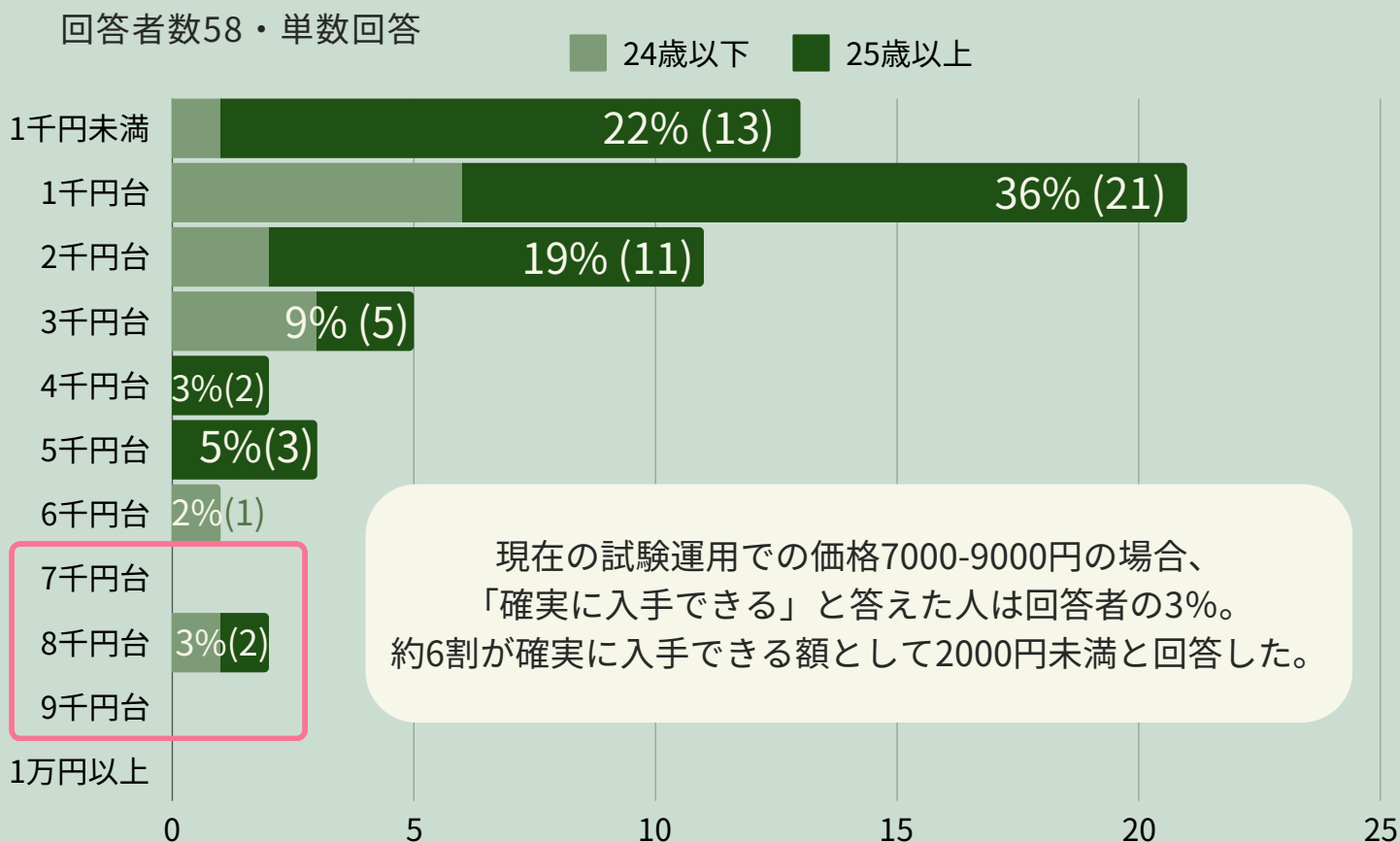


薬局で入手した場合、全員が48時間以内に服用
薬局で入手ができなかった58人中、72時間以内に服用できたのは17人(29.3%)

今後変わってほしいこと

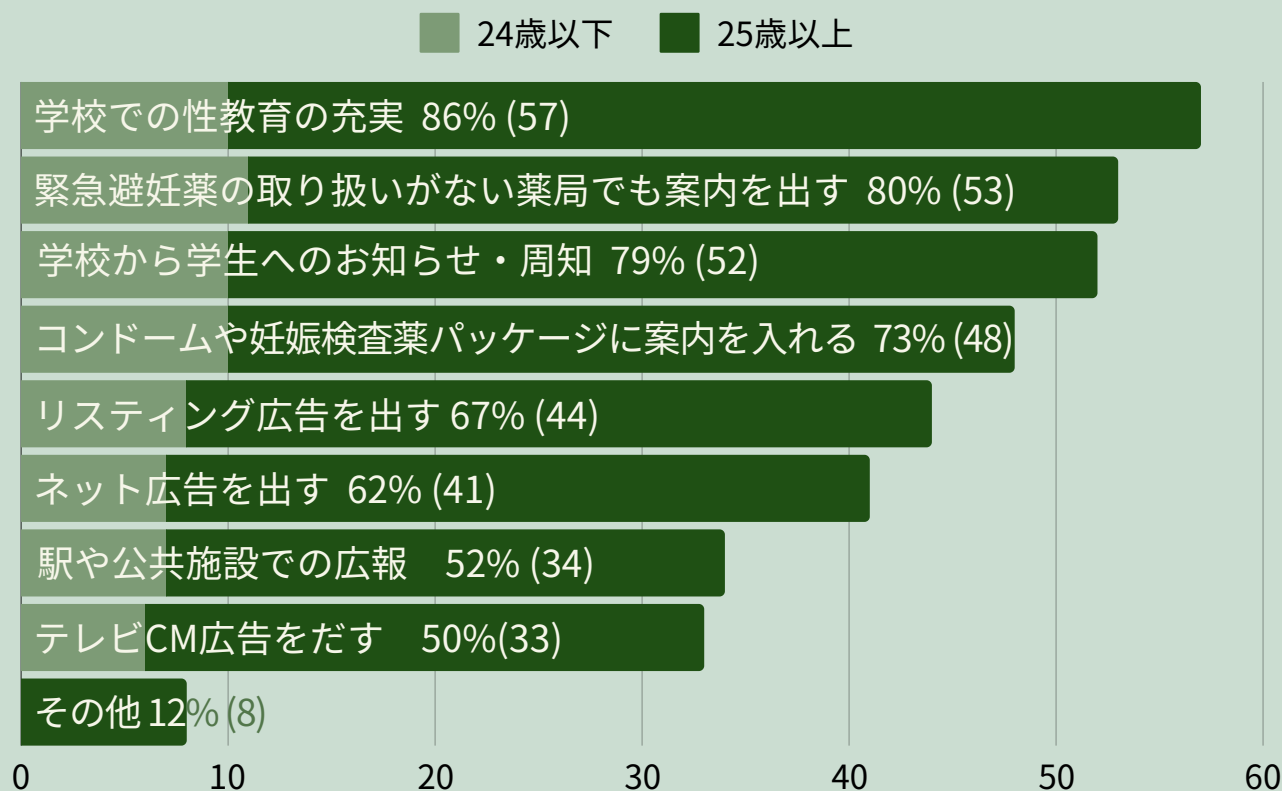


確実に入手できると思う価格



国にしてほしい情報周知

回答者数66・複数回答可



回答者の声

現時点では利用者に多くの手順を踏ませている仕様で、
「本当は使いたいけど使えない人」はたくさんいる。(…)
“緊急”避妊薬という名称だというのにこの現状では、
本当に求めている人の手元に届かないまま。

(東京都・27歳)

回答者の声

そもそも特設ページの存在を知らず、試験販売をしている
薬局をどのように探せばいいか途方にくれました。
また薬局とドラッグストアを混同しており、身近な存在だった
ドラッグストアの調剤薬窓口に連絡したところ
「処方箋が必要」と言われてしまい、
レディースクリニックを探してしまいました。
さらにその日は日曜日で、多くの調剤薬局は休業日だったので、
営業している病院や薬局を探すのも大変だったので、
買いだめができると安心できると思います。
(27歳)

回答者の声

緊急避妊薬のことを知っていても、条件が合わなければ
手に入れることが出来ないということを痛切に感じた。
24時間を過ぎての服用だったので緊急避妊薬を手にすることが
できない間、タイムリミットが迫ってくる焦燥感もあった。
また、薬局で購入できるかもしれないと実際に調べを進めて
いた時、緊急避妊薬を使用しなければならない状況にある人は
ここまで様々なことに耐えなければならないのか、
避妊に失敗したのだから罰を受けろと言われているのかと
思った。もっと手軽に、手に入れられるようになって欲しい。(広
島県・45歳)

回答者の声

セクシャルヘルスに関心は高い方で、情報チェックはしているつもりでした。が、自分がいざ当事者になると、セクシャルヘルスへの関心の高さは関係なく、とっても焦るものだと分かりました。

薬局で緊急避妊薬が入手できるようになることで、むしろ、セクシャルヘルスに関わるルートが増えるので、大衆としてセクシャルヘルスへの関心は高まると思います。禁止ではなく、入手が容易になるからこそ、情報を大衆が持てるようにできると良いですね。

(神奈川県・27歳)

回答者の声

まだ、最初の一步目というところだと思います。

このままどんどん進んでいって、いずれ困る人がいなくなるようにしたいと思います。

(京都府・30歳)

緊急避妊薬
薬局試験販売で購入できた方10人
試みたが購入できなかった方58人
アンケート調査結果

調査実施期間：2024年4月1日 - 4月21日

2024年6月公表

実施者：#なんでもないのプロジェクト、NPO法人ピルコン

緊急避妊薬 アンケート調査結果＜概要＞

アンケート概要

- タイトル：「緊急避妊薬・薬局試験販売で購入された方・試みたができなかった方へのアンケート調査」
- 調査実施期間：2024年4月1日 - 4月21日
- 実施者：＃なんでないのプロジェクト、NPO法人ピルコン
- 引用・転載等の際は、「＃なんでないのプロジェクト調べ」と出典明記をお願いします。メディア掲載される場合は、必ず事前にお問い合わせください。
- お問い合わせ先：nandenainohinin@gmail.com

回答者について

- 「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」を通じて、緊急避妊薬を薬局で購入した方 10人 (15%)
- 緊急避妊薬を薬局で購入を試みたができなかった方(病院等を受診後に薬剤を入手、また、薬剤自体の入手を諦めた方) 58人 (85%)
- 回答者のうち、85%(68人中58人)が薬局で購入を試みたができなかった

アクセス状況について

- 全体の79%(68人中54人)が、アクセス改善を「全く感じていない」、もしくは「感じていない」
- 試験的運用によるアクセス改善を感じないのは、購入できた人で60%(10人中6人)。一方、購入できなかった人では83%(58人中48人)がアクセス改善を感じていない。

薬局での入手を断念したタイミング

- 緊急避妊薬の入手を断念した人も、68%(53人中36人)が特設ホームページにたどり着くが、対象薬局に電話をかけるところで82%(39人中32人)が断念している。
- 「試験的運用の対象薬局数が少ない」「(対象店舗が)都心部ではなくアクセスが悪い」という声も多く、対象薬局が広がれば、薬局でのアクセスを確保できた可能性があると言えるのではないかと。

服用までの時間

- 薬局で入手できた10人中、全員が72時間以内に服用した。そのうち24時間以内に服用できたのは9人(90%)。
- 薬局で入手ができなかった58人中、72時間以内に服用できたのは17人(29%)、そのうち24時間以内に服用できたのは8人(14%)。

今後変わってほしいこと

- 「対象薬局が増えてほしい」人が94%(68人中64人)。
- 次いで「情報が手に入りやすくなってほしい」82%(68人中56人)、「価格を下げてほしい」が80%(68人中55人)であった。

希望価格

- 試験的運用で設定されている価格である7000-9000円で「確実に入手できる」と答えた人は回答者の3%(58人中2人)。
- 約6割(58人中34人)が確実に入手できる額として2000円未満と回答。

希望する情報周知の方法

- 「学校での性教育の充実」が最多で86%(66人中57人)
- 次いで「緊急避妊薬の取り扱いがない薬局でも案内を出す」80%(66人中53人)が多い

目次

緊急避妊薬 アンケート調査結果＜概要＞	1
目次	2
調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査の背景	3
3. 調査手法と調査対象	3
4. 本調査の利用について	3
結果 - 回答者について	4
Q1-1 性別	4
Q1-2 年齢	4
Q1-3 所属・職業	4
Q1-4 あなたはどちらに該当しますか？	5
Q1-5 試験的運用によってアクセス改善がされていると感じますか？	5
Q1-6.それはなぜですか？	8
Q1-7 お住まいの都道府県	8
結果 - 入手について	9
Q2-1 あなたが踏んだ手順にチェックを入れてください	9
Q2-1 あなたが踏んだ手順のうち、ハードルに感じたものを教えてください	9
Q2-3 Q2-2に関して、選択事項をハードルと感じたのはなぜですか？	10
Q2-4 緊急避妊薬を探し始めてから服用までに何時間かかりましたか？	12
Q2-5 今後、条件などが変わるなら、どう変わってほしいですか？	12
Q2-6 Q2-5について、なぜそう思いますか？	13
Q2-7 緊急避妊薬がいくらであれば確実に入手できると思いますか？	15
Q2-8 情報周知のため国等に行ってほしい方法などがあれば教えてください	15
Q2-9 他に思うことや伝えたいことがあれば教えてください	16

調査概要

1. 調査の目的

緊急避妊薬の薬局における試験販売の現状とそれに関連する当事者のニーズの把握

2. 調査の背景

政府は2023年11月から、日本薬剤師会への委託事業として、「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」として、緊急避妊薬(通称アフターピル)の一部薬局での試験販売を始めている。しかしあくまで「試験」的な運用で、今後この状態がいつまで続き、もし薬局販売が全面的に解禁された場合にどのような提供形態になるのかなど、多くの点で今後の見通しが不明瞭である。一方で、今回の試験運用を通して緊急避妊薬を処方箋なく入手することは、その対象店舗の少なさや各種条件などにより、極めて困難という声が上がっていた。政府の試験的運用にかかる調査では、薬局及び薬局と連携する産婦人科、及び試験的運用により薬局で緊急避妊薬を入手でき、かつ調査に同意した購入者が対象となるため、緊急避妊薬の入手まで至らなかったケースも含めて当事者のニーズやアクセス改善の課題を明らかにするため、本調査実施に至った。

3. 調査手法と調査対象

2024年4月1日から4月21日のあいだに、#なんでないのプロジェクトとNPO法人ピルコンが共同で、「緊急避妊薬・薬局試験販売で購入された方・試みたができなかった方へのアンケート調査」を行った。調査ツールには「Googleフォーム」を使用した。フォームのURLをSNS(X、Instagram、Facebook等)を通じて発信し、当事者にリーチさせる「スノーボールサンプリング」で行った。

調査対象は、『「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」を通じて、緊急避妊薬を薬局で入手した方』と『緊急避妊薬を薬局で入手しようとしたができなかった方』のいずれかとした。

緊急避妊薬のアクセスについて、回答形式には選択式と記述式の両方を用意し、服用当事者がより経験を共有しやすい形とした。一方で、本件に関して問題意識が高い層にリーチしている可能性などがあり、回答者の偏りが存在するため、本データは母数を緊急避妊薬服用者一般ではなく、本調査回答者と解釈した。

3週間の調査期間中、107件の回答が寄せられた。回答対象者に含まれることを確認する項目に適切な回答のなかった39件を除く、68件の回答を分析対象とした。薬局で入手した人としていない人で回答セクションを分けている部分があること、また回答必須の設問を設定していないため、項目ごとに集計数が異なる。

4. 本調査の利用について

上記の通り、本調査結果を分析、利用する上では対象者の偏り、サンプル数、表現等にご留意の上、取扱いにご注意ください。また、記述式設問は回答者のコメントをそのまま引用しております。引用・転載等の際は、「#なんでないのプロジェクト調べ」と出典明記をお願いします。

メディア掲載される場合は、必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ先：nandenainohinin@gmail.com

結果 - 回答者について

Q1-1 性別

女性 65人(%) その他 3人(4%) 計68人

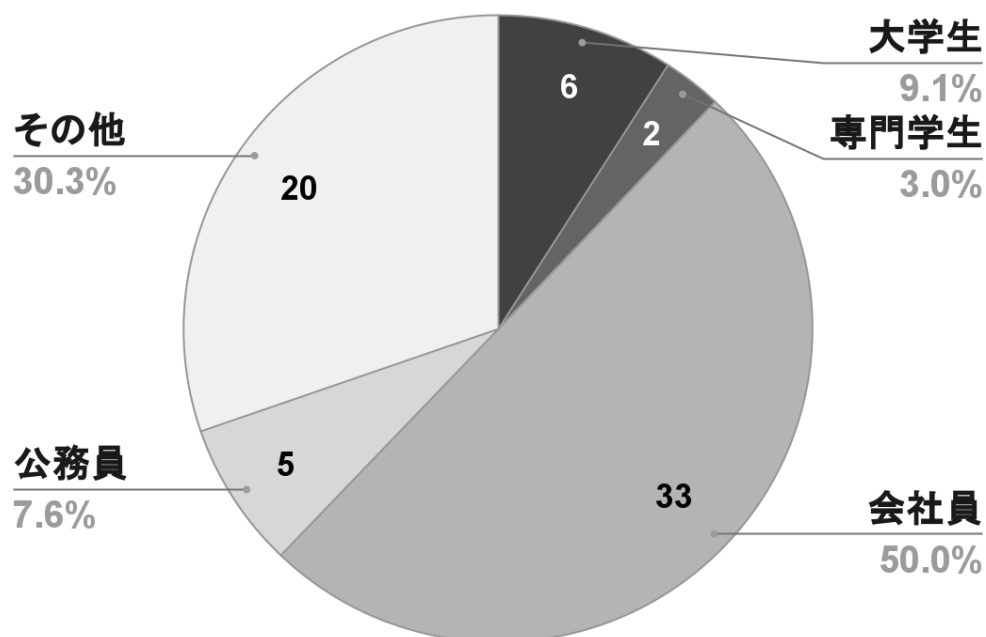
Q1-2 年齢

年齢	人数	割合	内訳 年齢(人数)
10代	3人	4%	18 (2) 19 (1)
20代	34人	50%	20 (2) 22(1) 23(1) 24(7) 25 (3) 26(6) 27(7) 28(3) 29(4)
30代	18人	26%	30 (7) 31(1) 33(2) 34(1) 35 (1) 36(1) 37(2) 38(2) 39(1)
40代	10人	15%	40 (3) 41(1) 42(2) 43(2) 45(1) 48(1)
50代	2人	3%	51 (1) 54(1)
無回答	1人	1%	—

今回の調査対象として、緊急避妊薬の服用を必要とする当事者を想定して実施したが、幅広い年齢層からの回答を得られた。保護者や支援者の立場からの回答が一部ある可能性も考えられたが、今回は年齢による回答の除外は行わず集計・分析を行った。

Q1-3 所属・職業

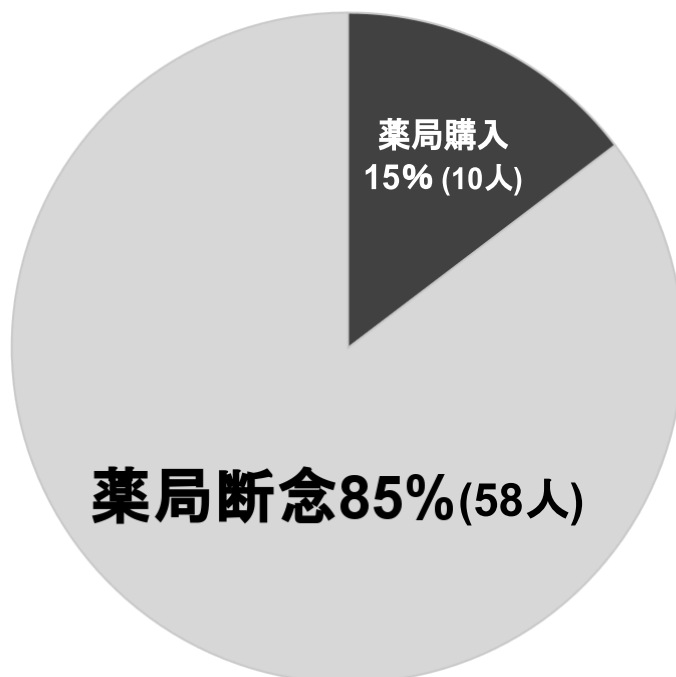
大学生 6人、専門学生 2人、会社員 33人、公務員5人、その他20人、無回答2人



Q1-4 あなたはどちらに該当しますか？

- 「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」を通じて、緊急避妊薬を薬局で購入した方 10人 (15%)
- 緊急避妊薬を薬局で購入を試みたができなかった方(病院等を受診後に薬剤を入手、また、薬剤自体の入手を諦めた方) 58人 (85%)

回答者のうち、85%が薬局で購入を試みたができなかった



Q1-5 試験的運用によってアクセス改善がされていると感じますか？

全体の約8割が、アクセス改善を全く感じていない、もしくは感じていない。
購入できなかった人の方が、購入できた人と比べて
試験的運用によるアクセス改善を感じていない。

	購入できた	購入できなかった	合計
1 (全く感じない)	2 (20%)	39 (67%)	41 (60%)
2	4 (40%)	9 (16%)	13 (19%)
3	2 (20%)	8 (14%)	10 (15%)
4	1 (10%)	1 (2%)	2 (3%)
5 (とても感じる)	1 (10%)	1 (2%)	2 (3%)
	10	58	68

Q1-6.それはなぜですか？

薬局購入できた方の回答

薬局購入できた人・「改善されたと全く感じない」を選択

- どこが対象の薬局なのかが公開されていない。ネットの情報を元にある薬局に行ったが、そこは対象ではなく別の薬局を教えてもらい電車で30分かけてそこまで行った。最初に訪れた薬局のスタッフが持っていた対象施設のリストは渡してもらえなかった。(神奈川県・26歳)
- 病院へのアクセスと、現在限定的に処方認められている薬局へのアクセスがほとんど変わらなかったから。気持ち的なハードルはむしろ、婦人科系疾患以外の性別関係なく患者がくる薬局の方が高まった。(神奈川県・27歳)

薬局購入できた人・「改善されたと感じない」を選択

- 試験運用している薬局がごくわずかなのと、結局面談して解説を聞いて...で病院以上に時間がかかったから。(東京都・22歳)
- 試験販売の場所が少なく、未だに高額な値段設定であったため。(広島県・26歳)
- 試験的運用がされていることを知っていないと、薬局で緊急避妊薬が購入可能なことを知らないのでは？そもそも宣伝不足。(沖縄県・54歳)

薬局購入できた人・「どちらともいえない」を選択

- 医師の処方箋が必要、その時間があればすぐ服用したいはず(群馬県・51歳)
- 薬局の人に理解がない。悪いことしたかのような態度。処方までの時間が長すぎる。(愛知県・27歳)

薬局購入できた人・「改善されたと感じる」を選択

- 薬剤師さんと話した上で買えるという安心感があったから。(沖縄県・23歳)

薬局購入できた人・「改善されたととても感じる」を選択

- 夜でも対応してくれたから。(岡山県・29歳)

薬局購入できなかった方の回答

薬局購入できなかった人・「改善されたと全く感じない」を選択

- 売っていない。(東京都・20歳)
- 金額など。(東京都・26歳)
- 薬局で購入できることを知らない。(東京都・27歳)
- 薬局に行っても売っていることに気が付かないような陳列をされていると感じる。(東京都・27歳)
- 服用まで時間との勝負であり女性にとって生活や命にかかわる重要な問題であるが、必要性和販売店舗数が見合っておらず、必要な時にアクセスできる状況とは言えないため。(東京都・28歳)
- 周りに浸透していない。薬局での案内がなく声をかけるのが不安。(東京都・28歳)
- 誰でも気軽に購入できることが目的のはずなのに購入できなかった。(東京都・30歳)
- 都内の実施店舗の少なさ、アクセスの悪さ。(東京都・31歳)
- 薬局が居住地から離れており、日常生活を送りながらでは入手が困難であったため。(東京都・33歳)

- 販売店が少ない場合は物理的なアクセスのブロックであり、処方箋が購入に必要な上記と変わらないから。(東京都・38歳)
- どこにも情報がないから。(東京都・38歳)
- 薬局が都心部にないため行けない。渋谷新宿などに試験導入して欲しかった。(東京都・40歳)
- 試しに購入したかったのですが、値段が高いのと近くに売っている場所がない。(東京都・42歳)
- 販売薬局が遠く、数が少ない。アクセス改善がされているとは、全く思えない。(東京都・43歳)
- 試験的運用がされていること自体知らなかった。(神奈川県・24歳)
- 緊急避妊薬を薬局で購入するための病院処方が必要なので、必要なタイミングで薬局で買えなかった。処方が必要ならば、その日に病院に行くのと同じなので、あえて薬局で買わなくても、病院で処方と薬の服用をします。この必要になった日も、朝から産婦人科9件にすぐに行けるかどうか連絡をしましたが、完全予約なので当日は無理ですと言われ。9件目にやっと「今すぐ来てください！緊急に対応できますから！」と言っていただき、最終的に服用することができました。薬局で買えたら、産婦人科9件への電話も不安もなく済んだと思うと、薬局で買えるようになって欲しいです。(神奈川県・27歳)
- 買えないので。(神奈川県・27歳)
- 価格によるアクセスのしにくさがあるから。(神奈川県・30歳)
- 病院以外で買えたことがないため。(神奈川県・30歳)
- どこの店舗で売っているかわかりづらいし、近所だとかえって買いづらい。(神奈川県・36歳)
- 買えなかった。(埼玉県・26歳)
- 販売されているのを見たことがない。(埼玉県・30歳)
- 手に入らなかったから。(埼玉県・35歳)
- 近くに対応してる薬局がない。(埼玉県・37歳)
- 買えなかったから。(埼玉県・41歳)
- 店舗があまりにも少ない、意味が無い。(大阪府・30歳)
- 認知がされていない。(静岡県・34歳)
- 試験販売している薬局の情報が検索してもすぐに出てこず、検索が大変だった。また結局、アクセスできる距離に販売している薬局が1ヶ所もなかった。(山形県・43歳)
- 土日祝日などの夜間に対応されていないと感じたから。(広島県・45歳)
- 運用場所が少ない。(福岡県・26歳)
- 近所の薬局に売っていない。(沖縄県・30歳)
- 買う迄にまだまだ経由する物が多い。値段が高い。外国みたいに低価格または無料で配るべきだし女性の体を決める権限は女性にのみ持たせるべき。(沖縄県・30歳)
- 県庁所在地には1つも置いてなく、県内でも割と不便な所に2〜3カ所しか置いていない。(24歳)

薬局購入できなかった人・「改善されたと感じない」を選択

- 試験的運用をしている薬局の数が少ない。また、特に都内は繁華街の婦人科の方がまさっているため(病院の立地が良い、土日営業時間が長い、価格が安い、薬の種類を選べる、現金以外の支払OK、男性がほほいなので心理的に楽)。(埼玉県・29歳)
- 店舗数は増えたが、1番近いところでも家から1時間以上かかるから。(大阪府・19歳)
- 自分の生活圏内で手に入らないので。(大阪府・42歳)
- 入手を考えた際に近隣の薬局で入手できなかったから。(広島県・33歳)

- 近くに対象の薬局がなかったため。(福岡県・25歳)
- 試験販売の存在は知っていましたが、販売場所をどのように探せばよいのかわからなかったため。(27歳)
- 避難に失敗し、必要に迫られて検索したけど、実際にどうやったら買えるのか全然わからなかった。調べるよりも、病院に行った方が早くわかりやすいような気がして結局かかりつけの病院に行った。このアンケートを見るまで、そんな試験的運用がされてることを知らなかった。(40歳)

薬局購入できなかった人・「どちらともいえない」を選択

- 神奈川県という大きな県に住んでいるのに売っているところが藤沢だったりだとかすごくアクセスの悪い所なのでもっとアクセスの良い薬局に置いて欲しい。(神奈川県・18歳)
- 用意できていない薬局も多かった。薬剤師の目が怖かった。(神奈川県・25歳)
- 特に変化を感じられなかったから。(埼玉県・37歳)
- 薬局で薬を見かけていないから。(埼玉県・48歳)
- 多少改善されてはいるんだと思いますが、まだまだ足りないと思います。(京都府・30歳)
- 田舎のほうだと変わっている感じはない。(愛知県・20歳)
- 田舎に住んでいるので、身近に販売している薬局がなかったため。また、土日休みだったり平日も17時までのところが多く、仕事をしている身としては時間的にも難しかった。(石川県・24歳)

薬局購入できなかった人・「改善された感じる」を選択

- 病院より薬局の方が身近な存在で行きやすい為。(東京都・29歳)

薬局購入できなかった人・「改善されたととても感じる」を選択

- いざという時に薬局で購入出来ることで助かる女性がいると思うから(茨城県・26歳)

Q1-7 お住まいの都道府県

北海道地方	0	—
東北地方	1	山形 1
関東地方	40	東京 18, 神奈川 11, 埼玉 8, 千葉 1, 茨城 1, 群馬 1
中部地方	4	愛知 2, 静岡 1, 石川 1
近畿地方	5	京都 1, 大阪 4
中国地方	6	島根 1, 広島 3, 岡山 1, 山口 1
四国地方	0	—
九州地方	6	福岡 2, 沖縄 4
無回答	6	—

結果 - 入手について

Q2-1 あなたが踏んだ手順にチェックを入れてください (複数選択可)

- A. 「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」特設ホームページを見つける
- B. 自分が対象者かどうか、調査事業の条件を確認する
- C. 対象薬局の中で自分が行ける薬局を検索する
- D. 薬局に電話をする
- E. (未成年の方) 保護者の同意を得て、保護者同伴で薬局に行く
- F. 薬剤師から説明を受ける
- G. 研究参加に同意、事前質問票に記入する
- H. 薬剤師の面前で服用する
- I. 7,000～9,000円の薬代を支払う
- J. その場でアンケートに答える
- K. その後アンケートに答える
- L. 謝礼を受け取る

緊急避妊薬入手を断念した人の内、約7割弱が特設ホームページにたどり着いているが、対象薬局の検索まで進めた人の約8割が電話をかけるところで断念している。対象薬局が広がれば、薬局でのアクセスを確保できた可能性がある。

手順	回答者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
購入	10	6	7	8	7	0	9	9	9	10	8	8	3
断念	53	36	32	39	7	0	2	-	1	5	-	-	-
計	63	39	39	47	14	0	11	9	10	25	8	8	3

Q2-1 あなたが踏んだ手順のうち、ハードルに感じたものを教えてください (複数選択可)

- A. 「緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業」特設ホームページを見つける
- B. 自分が対象者かどうか、調査事業の条件を確認する
- C. 対象薬局の中で自分が行ける薬局を検索する
- D. 薬局に電話をする
- E. 身分証を持って薬局に行く
- F. (未成年の方) 保護者の同意を得て、保護者同伴で薬局に行く
- G. 薬剤師から説明を受ける
- H. 研究参加に同意、事前質問票に記入する
- I. 薬剤師の面前で服用する
- J. 7,000～9,000円の薬代を支払う
- K. その場でアンケートに答える
- L. その後アンケートに答える
- M. 謝礼を受け取る

手順	回答者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
購入	10	4	4	3	5	1	-	2	4	-	7	1	2	-
断念	51	16	21	18	19	15	7	22	10	10	18	7	4	3
計	61	20	25	21	24	16	7	24	14	10	25	8	6	3

Q2-3 Q2-2に関して、選択事項をハードルと感じたのはなぜですか？

◆薬局購入できた人

情報面

- 「アフターピル」等の検索では、調査事業が開始するというニュース記事や、まとめサイトなどしか出てこなかった。(神奈川県・26歳)
- 一発で特設HPにたどりつけない。精神的にも時間的にも焦っているのに、すぐに情報がとれないHPは不親切で、不信感が増した。若い年齢層には、優しくない金額で、そこはかなり高いハードルになっているかと思う。(沖縄県・54歳)

◆アクセス面

- 電話の際、どんな説明をすれば良いか迷った。また、近隣には薬局がなかった。(片道約2時間かかった) (沖縄県・23歳)
- 時間がとれたから。(神奈川県・27歳)
- 近くに対象薬局がなかった。電話対応が悪く(明日ではダメですか?)とか言ってきた。説明が長い。他の処方もあるので待ち時間も長い。結構細かく書かないといけないので、避妊に失敗した人以外だとハードルが高い。(愛知県・27歳)

◆金銭面

- 全てにおいて心理的負担がかかるし、自分が責められるのではないかという不安を感じてしまう。また、高価で服用をやめようかと何度か考えてしまった。(広島県・26歳)
- 長いから/高いから。(岡山県・29歳)
- 金額が高い。(群馬県・51歳)

薬局購入できなかった人

◆情報面

- 特設サイトへなかなかたどり着くことが出来なかった。(東京都・31歳)
- 薬局での購入が試験的にスタートしているのは知っていたので検索までは容易だったが、病院等処方が必要とは知らなかったので、「結局すぐに薬局では買えない？え？買えるための試験的だよね？」と、何回かループして考え、条件をチェックしたので、ハードルが高かったです。(神奈川県・27歳)
- 特設ページをそもそも知らなかったため。(神奈川県・30歳)
- 「緊急避妊薬は病院で処方」しか出てこない。(神奈川県・36歳)
- ホームページのつくりがわかりにくい。(埼玉県・29歳)
- 調べるのが大変。(埼玉県・41歳)
- 文言が難しく検索に引っかかりにくい。(茨城県・26歳)
- 良くわからないから。(愛知県・20歳)
- そもそもHPに辿り着けずネットを長時間探したから。(山形県・43歳)

- 本当に緊急避妊薬を飲んでも良いのか、買いに行っても断られないか、自分に十分な知識が備わっていなかったから。(大阪府・19歳)
- 見つけづらい。分かりづらい。(24歳)

◆アクセス面

- 急いでる。(東京都・20歳)
- 子どもや仕事がある状況で、時間を確保することが困難であったため。(東京都・33歳)
- 自宅からアクセスが悪い。(東京都・40歳)
- 遠いので。(神奈川県・18歳)
- 恥ずかしい。(埼玉県・26歳)
- 緊急で避妊が必要な状況で、誰かの承認を得なければならないという状況が心理的なハードルです。(埼玉県・30歳)
- 薬にアクセスするために負担だから。女性の人権を守るため、風邪薬のように手に入るべき薬と考えます。(埼玉県・35歳)
- 検索しても近くなかったから。(京都府・30歳)
- 仕事があったため、開院している時間につけられなかった。(広島県・45歳)
- 該当薬局が少ないため。(福岡県・25歳)
- 情報が探せない、そもそも対応してもらえない、金額が高い、個人情報晒さないといけなの辛い。(沖縄県・30歳)
- 週末だったので空いている薬局がまず見つからず、また前日の夜に性交渉をして避妊に失敗したことが第三者に知られることに抵抗を感じたため。(27歳)
- 余裕がない時にこの手順が踏めない気がする(実際病院の方が自身は楽だった)。(40歳)

◆仕組み面

- アクセス面でも金銭的な面でも精神的な面でも非常に高いハードルを感じる。バイアグラが保険適用されて手に入りやすいのに比べると、緊急性も必要性もあるのになぜこんなにも手に入りづらいシステムになっているのか理解できず、憤りすら覚えている。(東京都・27歳)
- 妊娠可能な全ての女性に必要なものである薬にも関わらず、販売環境が劣悪だから。(東京都・43歳)
- 薬剤師の目で服用しないといけないのは、プライバシーの観点から非常に不快に感じた。インフルの薬や、一般避妊薬、その他もろもろの薬には不必要な手順をなぜ入れたのか、緊急避妊薬の普及を抑圧する意図しか感じられず、大変遺憾。(神奈川県・25歳)
- 知られたくないから。(埼玉県・37歳)
- 緊急のくせにやる事が多い。それらを全て片方の性にだけ丸投げしている。未成年なら更にハードルが高いと思う。(沖縄県・30歳)

◆金銭面

- 7,000-9,000円を予定なく用意することが難しい。(東京都・28歳)
- 金額が高い。視線が気になる。(東京都・28歳)
- 私は成人済みなのでハードル高くないですが、未成年の子が保護者同伴で行くのは少しハードル高いのかなと思いました。あと、金額面ももう少し安くなると嬉しいです。自分が必要な状況になったら全然この金額でも購入しますが(東京都・29歳)
- 高価すぎる。(東京都・38歳)
- 高い。(神奈川県・30歳)
- 値段が高い。(大阪府・42歳)
- 高すぎる。(福岡県・26歳)

Q2-4 (服用された方へ)緊急避妊薬を探し始めてから服用までに何時間かかりましたか？

薬局の場合、約9割が24時間以内に服用しているが、それ以外の場合、6割弱にとどまる
薬局で入手できなかった58人中、72時間以内に服用できたのは17人。

	-6h	12h	-18h	-24h	-36h	-48h	-60h	計
薬局	2 (20%)	3(30%)	2(20%)	2(20%)	0	1(10%)	0	10
それ以外	3 (18%)	2(12%)	1(6%)	2(12%)	3(18%)	4(24%)	2(12%)	17

Q2-5 今後、条件などが変わるなら、どう変わってほしいですか？ (複数選択可)

- A. 情報が手に入りやすくなってほしい
- B. 対象薬局が増えてほしい
- C. 身分証を見せたくない
- D. 連絡先を教えたくない
- E. 薬剤師の面前で服用したくない
- F. 価格を下げてほしい
- G. 後日連絡してこないでほしい
- H. 年齢制限をやめてほしい
- I. 未成年の場合、保護者の同意・同伴を条件としないでほしい
- J. 服用者以外も購入できるようにしてほしい
- K. 個室での対応をしてほしい
- L. 専門知識のある薬剤師に対応してほしい
- M. 地域の産婦人科・婦人科の受診先を紹介してほしい
- N. その他

「対象薬局が増えてほしい」と回答した人が94%。次いで「情報が手に入りやすくなってほしい」と回答した人は82%、「価格を下げてほしい」が80%であった。

年齢	回答者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
-24	14	11	13	5	5	5	11	5	6	9	10	5	5	6	-
25-	54	45	51	25	23	24	44	20	31	30	21	26	15	16	10
計	68	56	64	30	28	29	55	25	37	39	31	31	20	22	10

その他55(例)：10

- 服用者がZoomなどで問診を受け、第三者が薬を取りに行くなど選択肢が必要。
- 性教育の場できちんと情報提供をして欲しい。
- 女性の薬剤師が対応し、服用者側が自分から話さない限り詮索したり説教しようとしなくてほしい。
- 一般のくすりとして扱ってほしい。
- 薬局が積極的に「緊急避妊薬がある」ということを利用者に見やすい場所でアピールしてほしい。

Q2-6 Q2-5について、なぜそう思いますか？

◆薬局購入できた人

- 心理的負担を感じずに、いつでも手軽に服用できるようにしたい。(広島県・26)
- ただただアクセスしづらい。できるだけ少ない人にしかアクセスさせたくないと思っているような現状だから。(神奈川県・26歳)
- スギ薬局などどこにでもあるところだと安心出来る。個室で知識のある人だと安心出来る。(愛知県・27歳)
- 価格を下げてほしいのは、保険が効かないのが理解できないからです。(岡山県・29歳)
- 人と関わりたくない。(神奈川県・29歳)
- よりすみやかに服用するため。(群馬県・51歳)
- 必要だと思うことなのに、「やりにくさ」のハードルをあげていることだと思うから。(沖縄県・54歳)

◆薬局購入できなかった人

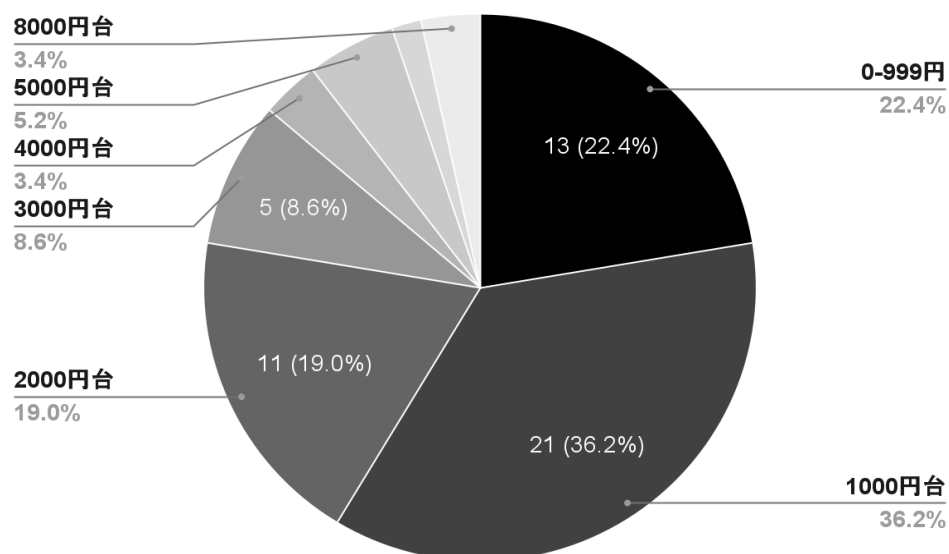
- 特に未成年者の望まない妊娠が増えているので、アフターピルが服用できずそのまま妊娠してしまい妊娠後期まで行ってしまう人が多いので未成年者にもはんばいするべきだともいいました。(神奈川県・18歳)
- 1番近い薬局でも家から1時間かかるから。(大阪府・19歳)
- 高価格は負担になる。性交渉の低年齢化、親に言えないことでの未受診妊婦が増加しているため考え直す必要があると思う。(神奈川県・24歳)
- 不要なプレッシャーをなくす、精神的にも物理的にも緊急避妊薬にアクセスしやすくするべき。アクセスしやすくなったからといって、社会の風紀が乱れることなどありえないし、むしろ、望まない妊娠による不適切・無責任な中絶、出産、子育てが減るとおもうから。(神奈川・25歳)
- 避妊の失敗という誰にでも起こりうることであり緊急性が高いにも関わらずわざわざ受診しなければアクセスできない。高価すぎるため経済的にも厳しい人は多く、望まない妊娠につながる。未成年は親との関係性が良いとしても、現状の性教育の状況ではとても言いづらいことは想像に難くない。(福岡県・25歳)
- 緊急で余裕を持って出せる金額は、4000円以下です。(神奈川県・27歳)
- 手に入りづらい環境であれば間に合わない可能性がある。(神奈川県・27歳)
- 現時点では利用者に多くの手順を踏ませている仕様で、「本当は使いたいけど使えない人」はたくさんいる。にもかかわらず、国が「緊急避妊薬を薬局で導入しても意味がない」と短絡的に判断をし、再び薬局で買えない状況に逆戻りしてしまわないように条件を緩めてほしい。“緊急”避妊薬という名称だというのにこの現状では、本当に求めている人の手元に届かないままであるから。(東京都・27歳)
- そもそも特設ページが存在を知らず、試験販売をしている薬局をどのように探せばいいか途方に迷いました。また薬局とドラッグストアを混同しており、身近な存在だったドラッグストアの調剤薬窓口で連絡したところ「処方箋が必要」と言われてしまい、レディースクリニックを探してしまいました。さらにその日は日曜日で、多くの調剤薬局は休業日だったので、営業している病院や薬局を探すのも大変だったので、買いだめができると安心できると思います。(27歳)
- 時間との勝負なので急な出費でも仕事があっても服用できるように、低価格で物理的にアクセスしやすくしてほしい。特に未成年はハードルが高いため、保護者同伴なしにもしてほしい。(東京都・28歳)
- 自分は社会人だからまだ自分の意思で払える範囲だったが、中高生や望まない性交渉をした若い世代の女性には難しい金額。(東京都・28歳)

- 情報も薬局も分かりやすい方が、もし自分が必要になった時に役に立つと思うので。(東京都・29歳)
- 女性の権利や個人情報をお金でただ漏れにするのは良くない。(沖縄県・30歳)
- アクセスのしやすさが、人生を大きく分けるため。(京都府・30歳)
- 購入のハードルをとにかく下げたい。(埼玉県・30歳)
- 情報がオープンではなく、価格が高いため。(神奈川県・30歳)
- ドラッグストアで薬を買うように、パーソナルな部分をさらけ出さなくても買えるようになるべき。(東京都・31歳)
- 自分自身の体の事なのに他者の承認を受ける事が多すぎるから、またプライベートに踏み込まれすぎていて非常にストレスを感じるから。(広島県・33歳)
- アクセスのしやすさは、望まれない子どもを減らせるだろうから。(東京都・33歳)
- 薬剤師の面前で飲むこと以外は風邪薬と同等にすべきだと思います。アフターフォローの要否は人によると考えます。(埼玉県・35歳)
- 個人情報は知られたくないし、他の人に避妊薬を買っていることを知られたくないが、服用後の体調変化があった場合に相談できる病院等の情報が欲しいため。未成年が気軽に買ってしまうのは問題点も多いが、望まぬ妊娠をしても誰にも助けを求められない人もいると思うので、そういった不幸を減らせたなら良いと思うから。(神奈川県・36歳)
- 人の目が気になるから。(埼玉県・37歳)
- 「自由」であるべきだと思うから。(東京都・38歳)
- 当該薬服用の目的を鑑みた場合、すべて尊重されるべき個人の尊厳と安全をおびやかす、アクセスを阻むものだから。(東京都・38歳)
- 検索能力によって受け取れる情報に格差があるのはやむを得ないことは理解できても、このように急を要する内容こそ周知をしっかりとってもらえたらと思う。(40歳)
- 好奇心で見られたくない。(埼玉県・41歳)
- 72時間と時間制限がある中ではアクセスのしやすさが大事。年齢制限は生理があれば子供でも妊娠できるので。(大阪府・42歳)
- 薬剤師から個人情報が流れそうなので。(東京都・42歳)
- もっと気軽に誰しもが服用できるようにすべきだと思うから。(山形県・43歳)
- 緊急避妊薬が普通に販売されていないことが、女性に対する差別だからです。(東京都・43歳)
- 緊急避妊薬が必要になった日に、どうしても外せない仕事があった。パートナーが取りに行ければ、もっと早く手に入れて服用することができたと思うから。(広島県・45歳)

Q2-7 緊急避妊薬がいくらであれば確実に入手できると思いますか？下記から一つ選んでください

現在の試験運用での価格7000-9000円の場合、
「確実に入手できる」と答えた人は回答者の3%。
約6割が確実に入手できる額として2000円未満と回答した。

年齢	0-999	1千-	2千-	3千-	4千-	5千-	6千-	7千-	8千-	9千-	1万-	回答数
-24	1	6	2	3	0	0	1	0	1	0	0	14
25-	12	15	9	2	2	3	0	0	1	0	0	44
計	13	21	11	5	2	3	1	0	2	0	0	58



Q2-8 情報周知のため国等に行ってほしい方法などがあれば教えてください (複数選択可)

- A. 緊急避妊薬の取り扱いがない薬局でも案内を出す
- B. コンドームや妊娠検査薬パッケージに案内を入れる
- C. 学校から学生へのお知らせ・周知
- D. 学校での性教育の充実
- E. 駅や公共施設での広報
- F. テレビCM広告をだす
- G. ネット広告を出す
- H. リスティング広告（インターネット「緊急避妊薬」などと検索して一番上に出るようにする）を出す
- I. その他

年齢	回答者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I
-24	13	11	10	10	10	7	6	7	8	-
25-	53	42	38	42	47	27	27	34	36	8
計	66	53	48	52	57	34	33	41	44	8

その他(例) : 10

- 校医の先生に周知し、生徒の相談にのれるようにする。
- もっと大々的に、SRHRについて全国民が知るべき。
- 生理用品おりものシートパッケージにも案内を入れてほしい。
- とにかく女性に「自分の体は自分のものであり、避妊も妊娠も性行為も自分の選択で選べる」と後押しする要素を盛り込んだ情報や広告を発信する。

Q2-9 他に思うことや伝えたいことがあれば教えてください

- アフターピルもっと楽にほしいよね。(神奈川県・18歳)

- 緊急避妊薬が買えないと、堕胎薬や避妊薬を個人輸入で怪しい場所から買うしかありません。日本の薬が高くて同じです。海外から買うしかなくてこわい。(東京都・20歳)
- 実際に今回のプロジェクトで緊急避妊薬を服用した者です。後日、説明を受けた通りにかかりつけの産婦人科を受診すると、対象年齢であれば産婦人科医でも緊急避妊薬が手に入ること、月経困難症治療のための低用量ピル(服用中)でも避妊率は高いことを教えていただきました。私の知識不足もちろんありますが、緊急避妊薬の服用前に、避妊率が高い状況で本当に飲むべきなのか、薬剤師さんと一緒に考える時間が欲しかったと、少し思いました。(沖縄県・23歳)
- 日本を変えてほしいです。(神奈川県・25歳)
- 孤立出産ののち乳児遺棄で母親が逮捕される事件が後を絶たない。父親は不問にされ母親だけが責任を負わされる。国がすべきことは逮捕ではなく、とにかく緊急避妊薬のアクセスを良くして望まない妊娠を女性が自分で防げるようにすること、また性教育の充実である。これは本当に早急に進めるべきことである。バイアグラが保険適用であることとの非対称性はかなりグロテスクである。(福岡県・25歳)
- 本当に困ってる女性達に手が届きやすい価格をお願いします。(茨城県・26歳)
- 女性の身体と健康、命に関わる問題なのに、本当に女性が必要としている声は無視され続けていることが腹立たしいです。もっと気軽に、安価に、安全に選択できるものであってほしいです。また、結局自分の体の変化に対処しなければいけないのは女性なのだから、男性はそれを予防する責任があるという内容の性教育も進めていく必要があると思います。(広島県・26歳)
- 気軽にできるようにしてほしい。(埼玉県・26歳)
- 私は首都圏に住んでいるので比較的探しやすいかったが、地域格差が生まれないようにしてほしい。(神奈川県・26歳)
- ほんとに困ってる人のために。すぐ買える、お金の心配をしなくても買えるようにしてほしい。(福岡県・26歳)
- セクシャルヘルスに関心は高い方で、情報チェックはしているつもりでした。が、自分がいざ当事者になると、セクシャルヘルスへの関心の高さは関係なく、とっても焦るものだと分かりました。薬局で緊急避妊薬が入手できるようになることで、むしろ、セクシャルヘルスに関わるルートが増えるので、大衆としてセクシャルヘルスへの関心は高まると思っています。禁止ではなく、入手が容易になるからこそ、情報を大衆が持てるようにできると良いですね。(神奈川県・27歳)
- 性暴力被害であった場合のためにワンストップ支援センター等の情報提供が、すでになされていた。(神奈川県・27歳)
- 厚生労働省が緊急避妊薬を含めた性に関する情報を国民に発信する。文部科学省が老若男女問わず性教育を学べる情報を積極的に発信する。(東京都・27歳)
- アンケートの実施ありがとうございます。皆様が一番痛感されているかと思いますが、一刻も早く緊急避妊薬が手軽に手に入るようになってほしいです。(27歳)
- 価格を下げてほしい、事前に失敗した時のため複数個買えるようにしてほしい。(岡山県・29歳)
- 価格については、特に高校生(または18歳)以下には無償かそれに近い価格で提供してほしいです。(埼玉県・29歳)
- 早く安く確実に入手できるようになると良い。(神奈川県・29歳)
- バイアグラの時みたいに即断で認可されるべき事案なのに何年かかってんの？(沖縄県・30歳)
- まだ、最初の一步目というところだと思います。このままどんどん進んでいって、いずれ困る人がいなくなるようにしたいと思います。(京都府・30歳)
- 薬剤師の前で飲まなくても、もしもの為に自宅保管用に購入できるようになるとより良い。(東京都・31歳)

- 女性が自分自身の体をコントロールする権利がなぜ手に入れないのか不満。(東京都・33歳)
- 避妊薬が病院へ行かなくても手に入ること、手軽に買える値段である事が一番良いと思いますが、それ以外にも避妊薬を使うことが後ろめたい事ではないという、世間への周知が必要だと感じています。(神奈川県・36歳)
- 婦人科へ受診し、待ち時間がとても不安でした。もっと手軽に手に入るべきです。(東京都・38歳)
- 中絶も基本的に手術なのも、心身ともに負担が大きいです。中絶する前に緊急避妊ピルがあれば、安心です。(東京都・40歳)
- 親に言えない(虐待、毒親など)10代の子がいることを理解してほしい。(大阪府・42歳)
- 望まない妊娠で苦しむ女性たちを減らしてほしい。(東京都・42歳)
- 結局オンラインから、電話診療で処方してくれるところで薬を手に入れたが、電話診療と言っても何かを聞かれることもなく、薬の説明もなく、ほんの20秒ほど。電話の声は途切れ途切れで怖かった。届いた薬もカプセルがひとつ無地の封筒に入っただけで、飲むのが怖かった。また20,000円以上支払った。薬局での購入推進に加えて、オンラインでの販売にもしっかりとガイドラインを設けるべき。(山形県・43歳)
- 女性の自己決定権を蔑ろにする国に未来はない。(東京都・43歳)
- 緊急避妊薬のことを知っていても、条件が合わなければ手に入れることが出来ないということを痛切に感じた。24時間を過ぎての服用だったので緊急避妊薬を手にすることができない間、タイムリミットが迫ってくる焦燥感もあった。また、薬局で購入できるかもしれないと実際に調べを進めていた時、緊急避妊薬を使用しなければならない状況にある人はここまで様々なことに耐えなければならないのか、避妊に失敗したのだから罰を受けろと言われているのかと思った。もっと手軽に、手に入れられるようになって欲しい。(広島県・45歳)
- 若い人には正しい性教育と、年配者には知識やモラルのブラッシュアップが必要です。(群馬県・51歳)

19 May 2025

To the attention of:
Your Excellency
Takamaro Fukuoka
Minister of Health, Labour and Welfare of Japan

Dear Minister Fukuoka,

We are writing on behalf of the Contraception Committee of the International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO), a global organization composed of professional societies of obstetricians and gynecologists worldwide. FIGO's mission is to improve the health and rights of women and newborns, reduce healthcare disparities, and advance obstetric and gynecological practice worldwide.

We commend the efforts of your Ministry to explore new approaches to improve access to emergency contraception (EC) in Japan. We would like to offer technical input based on international evidence and rights-based standards, which we hope will support informed decision-making regarding EC availability.

FIGO's guidance, developed in 2018 in collaboration with the International Consortium for Emergency Contraception (ICEC) (and available in [Japanese](#)) is clear:

- EC pills are safe and self-diagnosable. No medical screening, exams, or tests are needed before use.
- They are appropriate for over-the-counter (OTC) access, as endorsed in most countries.
- No routine follow-up is required unless the user seeks further support.

(Source: FIGO & ICEC Medical and Service Delivery Guidance, 2018)

Further, the available evidence highlights that EC pills act by preventing ovulation and are most effective when taken promptly. Regulatory barriers such as prescription requirements and age restrictions can delay access and reduce effectiveness, increasing the risk of unintended pregnancies.

Levonorgestrel (LNG) EC pills meet all international criteria for OTC status. They are:

- Safe, with no potential for overdose or addiction
- Well-tolerated, even with repeated use
- Safer than many OTC medications, such as aspirin

Clinical studies and WHO guidance support the removal of unnecessary access restrictions.
(Source: WHO Self-Care Interventions Guidelines, 2022 revision; ICEC Over-The-Counter Access To Emergency Contraceptive Pills, 2013)

We hope this information is helpful to your team and remain available to support your efforts in advancing access to EC in Japan.

Yours sincerely,



Dr Asha Kasliwal

Chair, FIGO Contraception Committee